

# 南小だより

[minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp](mailto:minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp)

令和4年3月23日

3月最終号

さいたま市立南浦和小学校  
電話 048-861-3781



## 繰り返すことの意義

校長 小野 圭司

早いもので私が本校に着任してから1年が経とうとしています。最近朝の登校の見守りのため地域を歩いていますと、毎日出会う皆さんと朝のあいさつを自然と交わらせるようになってきました。また、ある地域の方から「修学旅行に行けて良かったですね。6年生も喜んだでしょう。」というような励ましや労いの言葉を掛けてくださることもあります。これも毎朝、同じ場所を通ったり毎日あいさつを交わしたりすることなどを日々繰り返すことで得られる私にとっては良いごほうびだと思っています。

3月16日(水)には、上級生と下級生がペア(2~3人組)を作って交流する「ふれあいタイム」を実施しましたが、ペアでお互いに「ありがとうカード」を交換していました。この日までに各教室でメッセージを書いたり色を塗ったりし、心をこめてカードを仕上げていた様子を見ていましたので、もらった子どもたちがどのような反応をするのか楽しみでした。実際に、カード交換の様子を見てみると、予想通り互いに笑顔いっぱいでした。私に「6年生からもらったよ。いいでしょう。」と嬉しそうにカードを見せてくれた1年生もいました。今年度もコロナ禍のため予定よりは少ない実施回数ではありましたが、ペア学級でのレクレーションや、ペアで球根植え等から水やりまで行った「ペア一鉢運動」など、繰り返し交流したことにより親しみの気持ちや感謝の気持ちが高まっていたように思います。

本校の特色ある取組の一つの異学年交流ですが、この取組のおかげで本校の子どもたちが素直で純朴で面倒見がいいなどのよさが育っているのではないかと考えています。しかし、1回きりの取組では子どもたちの健全育成はなかなか図れません。やはり1回よりは2回、2回よりは数回、数回よりは10回以上というように、繰り返す回数が多いほど、下級生は上級生に対して憧れの気持ちが、下級生の世話を繰り返すことで上級生としての自覚がはぐくまれていくことを期待します。

さて、本日はハレの日です。朝のお別れ式では、いつもとは異なる雰囲気の中を卒業生を憧れの気持ちで見る1~5年生の姿があったはずで。

また、第133回卒業証書授与式では、1年間で約200日の授業日と考えると約1200回(コロナ禍による臨時休業期間もありましたので、もう少し減りますが…)の登下校や授業、友達や教職員とのかかわり等を繰り返した卒業生の成長を、学校での生活以上に様々な働き掛けや支援を繰り返してくださった保護者の皆様と一緒に祝いすることができたことと思います。

今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止等への対応により、本来の教育活動を実施できない歯がゆさがありましたが、本校の子どもたちをはじめ、保護者・地域の皆様、教職員など多くの人々のおかげで何とか1年間を終えられそうです。1年間、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。